



我孫子市立湖北中学校 検証事業研究成果報告



学校教育目標 **「自主貢献」** 自主的に判断・行動し、助け合える生徒の育成

研究主題 学び合いを通して、主体的に課題解決する生徒を育成し、
学力向上に繋げる ～ケアのある学びを通して～

平成28～30年度「全国学力・学習状況調査」における本校の現状

- 国語・数学ともに基礎基本（A問題）の定着が不十分である。
- 思考力・判断力を問う問題（B問題）が苦手な生徒が多い。
- 記述式の問題（B問題）になると極端に正答率が下がる。
- 国語・数学を問わず、無解答率が高い。 ○家庭学習の時間が少ない。

本校の主な取組（3カ年）

- 1年目 生活規律・学習規律の徹底
- 2年目 グループ活動の実践とQ-U検査の活用
- 今年度 **“湖北中授業スタイル”**の実践



5教科朝学習・1日1ページ学習

人間関係の把握・加配教員のサポート

成果・・・**学習意欲の向上**

- 教科への**高い関心**(全国平均を上回るか同等)
- 家庭学習時間の**上昇**
- 「自分で考え、取り組んでいた」生徒 **70%台→約85%**
- 無解答率 **約2%減少**
- 記述式の正答率 **8.3%上昇**

課題・・・**活用力の向上**

- 思考のプロセスの明確化
- ケアのある“学び合い”と、対話的な“考えの練り上げ(すりあわせ)”の両輪を進める、グループ学習の充実。
- 継続的なPDCAサイクルの確立